CARE AND MAINTENANCE

Cassina IXC.

Contents

家具のご使用上の注意

1.イス・ソファ類 …… 4
2.テーブル・デスク・収納類 …… 5

素材のお取扱い上の注意、及びお手入れ方法

Leather　革製品のお手入れ

革製品お取扱いの際の注意事項 …… 6
日常のお手入れ …… 6
素材ごとのお手入れ …… 6
汚れてしまったら …… 7
レザーマスターによるケア&メンテナンス …… 8
ソフトクリーナー・レザープロテクションクリームの効果と使用方法 …… 8
レザー プレトリートメントサービス …… 8
革製品のツヤとテカリについて …… 9

Fabric　布製品のお手入れ

日常のお手入れ …… 10
汚れてしまったら …… 10
テキスタイルマスターによるメンテナンス …… 11
テキスタイルクリーナー・プロテクターの効果と使用方法 …… 11
ファブリック プレトリートメントサービス …… 11

Wood　木製品のお手入れ

木製品お取り扱いの際の注意事項 …… 12
日常のお手入れ …… 12
汚れ・傷がついてしまったら …… 12
オイルフィニッシュ仕上の木製品のお手入れ …… 13
汚れてしまったら …… 13

Glass　ガラス製品のお手入れ

日常のお手入れ …… 14
商品ごとのお手入れ …… 14

Metal・Plastic　金属・プラスティック製品のお手入れ

日常のお手入れ …… 15

Mattress　マットレスのお手入れ

日常のお手入れ …… 16

Lamp　照明器具ののお手入れ

日常のお手入れ …… 17
ランプのお手入れ方法 …… 17
シェードのお手入れ方法 …… 17

家具のご使用上の注意

1. 椅子・ソファ類

■ 座る目的以外にはご使用にならないでください

椅子・ソファの上に立ったり、踏み台代わりに使用すると、転倒、ケガ、他のモノを壊す原因となるばかりでなく、製品の強度が劣化し、破損の原因となります。座る目的以外での使用は非常に危険ですのでおやめください。

■ 不安定な姿勢では椅子に座らないでください

座面に浅く座り体重が椅子の前脚に掛かる座り方、椅子の前脚を浮かせ体重が後脚に掛かる座り方、また座面以外の部分に腰掛けるような座り方をすると、椅子の脚が滑るなどして、転倒、ケガ、他のモノを壊す原因となるばかりでなく、製品の強度が劣化し、破損の原因となります。特にカウンター用椅子（座面の位置が高い椅子）は非常に危険です。不安定な姿勢では椅子に座らないでください。

■ フォールディングチェア（折り畳み椅子）の使用上の注意

中途半端に拡げられた折り畳み椅子に座ると、脚部がさらに開閉可動する反動を受け、転倒、ケガ、他のモノを壊す原因となるばかりでなく、製品の強度が劣化し、破損の原因となります。ご使用の際は、折り畳んでいる状態から、脚部を適正な角度まで完全に拡げてください。また、既に設置されている場合は、脚部が完全に拡げられていることをご確認の上、お座りください。さらに折り畳む／拡げる時は、開閉の可動部位（主に脚部フレーム）に指を挟む危険がありますので、十分にご注意ください。また、椅子を折り畳んで壁などに重ねて立てかけて置く場合は、崩れないよう十分に注意してください。

■ スタッキングチェア（積み重ね椅子）の使用上の注意

椅子の積み重ねが雑であったり、積み重ね過ぎの場合、積み崩れを起こし、ケガや他のモノを壊す原因となるばかりでなく、製品の強度が劣化し、破損の原因となります。隙間なく、しっかりと積み重ねてください。また椅子の種類によって積み重ねできる数が異なりますので、ご使用前に販売店もしくはアフターサービス窓口までお問い合せの上、安全にご使用ください。また、スタッキングチェアを専用のドリー（移動台車）や一般台車に載せて移動する場合には、上記注意を守るとともに、平らな場所に限り、静かにゆっくりと移動させてください。段差、傾斜のある所でのご使用は、積み崩れを起こす危険がありますのでおやめください。積み重ねた状態のまま、一般台車や手運びで移動することは、積み崩れを起こしやすく非常に危険です。十分に注意して行なってください。

■ 椅子・ソファを移動の際の注意

床に置いたまま引きずって無理に移動すると、床を傷つけたり、製品に無理な力が加わり、製品強度を劣化させ破損の原因となります。また、移動中に落としたり、倒したりすると、ケガや他のモノを壊す原因となるばかりでなく、製品の強度が劣化し、破損の原因となります。移動する時には、製品の重量に見合う無理のない人数を揃えて、落としたり、倒したりしないよう、手でしっかりと持って運んでください。

■ 設置場所の注意

必ず水平を保つように配置してください。歪みのある不安定な設置状態で使用を続けると、変形して製品の強度が著しく劣化し、破損の原因となります。高温・多湿の部屋では、カビやダニが発生しやすくなり、健康を害する恐れがあります。また、直射日光、冷暖房器具の熱や空気が、長時間にわたり直接家具に当らないようにしてください。変形、変色、製品強度を劣化させる原因となります。

■ 変形、ぐらつきを感じたら、直ちに使用を中止してください

普通に座る以外の力が、椅子・ソファに加わると、接合箇所の接着やネジのゆるみ、また変形により、ぐらつきが発生する場合があります。万一、変形やぐらつきを感じたら、直ちに使用をおやめください。引き続き製品を安全に使用するためには、点検・修理・交換など、メンテナンスが必要です。メンテナンスのご依頼、ご相談は、販売店もしくはアフターサービス窓口まで、お問い合せください。

2. テーブル・デスク・収納類

■ テーブル・デスクの上には乗らないでください

テーブル・デスクの上に腰掛けたり、立ったり、踏み台代わりに使用すると、転倒、ケガ、他のモノを壊す原因となるばかりでなく、製品の強度が劣化し、破損の原因となります。特に、ガラステーブル、フォールディングテーブル（折り畳みテーブル）、エクステンションテーブル（引き伸ばしテーブル）、天板置き式テーブル（天板と脚部が非固定）は、構造的に非常に危険です。テーブル・デスクの上に、腰掛けたり、立ったり、踏み台代わりに使用することはおやめください。

■ 扉・引き出しなどの使用上の注意

扉などにぶらさがったり、引き出しや引き手などに乗ったり、無理な力で引っ張ったりしないでください。製品の転倒や破損、またケガの原因となることがあります。引き出しは、勢いよくいっぱいに引き出すと抜け落ちてケガの原因となることがあります。扉や引き出しの開閉は、指を挟むなどのケガのないよう、静かにゆっくりと注意して行なってください。扉の開閉角度の限界以上に無理に開閉すると、扉の破損やケガの原因となります。また、扉の蝶番（取り付け金具）の固定用ネジ類にゆるみがないか時々点検し、ゆるみはじめたらしっかり締め直してください。ゆるんだまま使用を続けると、扉が落下して、製品の破損やケガの原因となります。

■ 収納・箱物などの取り外し可能な棚の使用上の注意

取り外しのできる棚は、棚受け具を確実に取り付けてください。中途半端な状態では、棚がはずれて、ケガや他のモノを壊す原因となるばかりでなく、製品の破損の原因となります。

■ テーブル・デスク／収納・箱物類を移動の際の注意

床に置いたまま引きずって無理に移動すると、床を傷つけたり、製品に無理な力が加わるため強度が劣化し、破損の原因となります。また、移動中に落としたり、倒したりすると、ケガや他のモノを壊す原因となるばかりでなく、強度が劣化し、破損の原因となります。移動する時には、製品の重量に見合う無理のない人数を揃えて、倒したりしないよう、手でしっかりと持って運んでください。特に、フォールディングテーブル（折り畳みテーブル）、エクステンションテーブル（引き伸ばしテーブル）、天板置き式テーブル（天板と脚部が非固定）は、持ち上げる部分に掛かる重量配分の加減で、製品が壊れる場合がありますのでご注意ください。また、移動の時には、中の収納物や取り外しのできる棚板、扉、引き出しをすべて外し、さらに取り外しのできない扉や引き出しは、移動中に開かないよう必ず鍵をかけるかテープなどでしっかり固定してください。

■ 収納・箱物の家具には、地震対策のため固定用具を併用して設置してください

地震で収納・箱物の家具類が倒れると、ケガや他のモノを壊す原因となり大変危険です。地震に備えて、建物の壁・床・天井などに、固定用具でしっかり固定してください。また、収納内部のモノについては、落下を防止するため、重量の配分等、置き方に十分注意してください。

■ 設置場所の注意

必ず水平を保つように設置してください。歪みのある不安定な設置状態で使用を続けると、変形して扉の開閉や引き出しの出し入れがスムーズでなくなったり、製品の強度が著しく劣化し破損の原因となります。高温・多湿の部屋では、カビやダニが発生しやすくなり、健康を害する危険があります。家具の背面にも空気が流れるよう、壁から10センチメートル程離したり、部屋の換気にご注意ください。直射日光、冷暖房器具の熱や空気が、長時間にわたり直接家具に当らないようにしてください。変形、変色、製品強度を劣化させる原因となります。

■ 変形、ぐらつきを感じたら、直ちに使用を中止してください

使用目的以外の力が家具に加わると、家具としての強度が極端に弱まり、変形したり、接合箇所の接着やネジがゆるみ、ぐらつきが発生する場合もあります。万一、使用中に変形、ぐらつきを感じたら、直ちに使用を中止してください。引き続き製品を安全に使用するためには、点検・修理・交換など、メンテナンスが必要です。メンテナンスのご依頼、ご相談は、販売店もしくはアフターサービス窓口までお問い合わせください。

■ テーブル・デスクの天板への熱についての注意

テーブルやデスクの上に高温のものを直接置かないでください。
天板の表面が著しく劣化することがあります。また、卓上コンロ・ホットプレートなどを使用する際は、天板に熱が加わらないように耐熱（断熱）の敷物などを利用してください。

素材のお取扱い上の注意、及びお手入れ方法 Leather 革製品のお手入れ

■ 革製品お取扱いの際の注意事項

ストーブや放熱器具を近くに置かない

放熱器具の高温は革の劣化をひきおこすことがあります。
20～30cmほど離して置いてください。ドライヤーやアイロンなども同様に、近くに置かないようにしてください。

ほこり・ちりは小まめに取り除く

ほこりやちりは、革の呼吸をさまたげ、風合いを損ねる原因になります。1週間に1回程度、掃除機などでやさしく吸い取るようにしてこまめに取り除いてください。

直射日光をさける

直射日光は革の変色やひびわれを引き起こすことがありますので避けるようにしてください。

壁から少し離して置く

家具を壁にぴったりとつけてしまうと、カビが発生する原因となります。壁から10cm程度離して置き、小まめに通気をしてください。

■ ※ Z 革のお取扱いについて

Z 革のお取扱いについて、他の革製品のお取扱いに加え、特に下記の点をご注意ください。

衣類・バッグなどの接触

Z革は独自の風合いを出すため、一般的な皮革製品に施される表面塗装がされておりません。衣類・バッグなどの接触や摩擦により、色移りの可能性がありますのでご注意ください。

紫外線・光

染料の特性上、光にあたると徐々に退色が起こります。
退色を最小限に抑えるために、紫外線などの光をできるだけ避けるようにしてください。

引っかき傷・擦り傷

Z革は一般の革よりやわらかい表面をもっており、傷がつきやすくなっています。一度ついた傷は元に戻すことができませんので、アクセサリー、キーホルダーなどの接触にご注意ください。

■ 日常のお手入れ

ブラシや掃除機でほこりやちりをこまめに取り除く

1 週間に 1 回程度は掃除機でほこりやちりを取り除くようにしてください。
乾拭きは、押しつけず、軽くほこりをさらう程度にしてください。長期間にわたる乾拭きは表面のほこりを革の毛穴に押し込んでしまう結果となります。
また、年２回くらいの割合で、家具専用の皮革クリームを薄くのばすように塗っておくと長持ちします。

■ 素材ごとのお手入れ

アニリン仕上の革（Z 革）

Z 革は、革本来の風合いを大切にするために表面が塗装されておりません。そのため吸水率が高く、耐水性が弱くなっております。
水ぶきはシミの原因になりますので、掃除機などでほこりを取除いてください。

スエード、ヌバックなどの起毛製品

汚れがつきやすくデリケートな素材です。毛並の美しさを保つため、エチケットブラシなどでマメにブラッシングしましょう。
ホコリがつきやすいので、掃除機などで起毛内に入り込んだホコリやチリを取り除きます。汚れてしまったらタオルなどで軽く叩いて汚れを落としてください。

人工皮革

天然皮革に比べてお手入れは簡単です。
本革と同じように、日常のお手入れや、汚れたらすぐに対処することを心がけてください。

■ 汚れてしまったら

汚れてしまった場合は、できるだけ早く対処することが大切です。汚れの種類に合わせてケアをしてください。

通常使用の汚れ

毎日の使用で少しずつついた汚れは、40 度くらいのお湯で薄めた中性洗剤で拭き取った後、きれいなお湯で拭いてください。
その際、後ろから前、上から下に沿って拭くとよいでしょう。
漂白剤やシンナー、ベンジンなどは使用しないでください。

当社では、クリーナーを用いたメンテナンスをおすすめしております。
クリーナーは直接吹きつけるのではなく、やわらかい布などにつけてご使用ください。
またクリーナーを使用する際は、必ず目立たない部分でテストをし、変色や風合いの変化などがないか確認をしてください。
※クリーナーの使用につきましては、製品に付属の使用説明書に従ってお使いください。

液体・水濡れによる汚れ

革は水分を吸うと、繊維が硬くなり色落ちや型崩れを起こしやすくなります。早めのお手入れを心がけましょう
やわらかい布で吸い取るように汚れを落とします。擦ったり押しつけたりして、汚れを中に押し込まないでください。
濡れた革は熱に弱く、ドライヤーやストーブでの高温の乾燥や、直射日光による乾燥は革の繊維の収縮変形変質につながり、修復が困難になるので避けてください。

食べ物や飲み物による汚れ

水で濡らしたやわらかい布で丁寧に拭き取ります。塩分の多い味噌汁や醤油などをこぼした場合は、あとで塩の結晶が表面に吹き出ることがあるので特に念入りに拭き取ってください。この時強く擦ると表面を傷つけてしまいます。

ボールペンやマジックの汚れ

ベンジンやシンナーを使用しないでください。革を傷めてしまうのはもちろん、色落ちの原因にもなります。
必ず専用のクリーナーをお使いください。
専用のものがない場合は一般の革クリーナーを使い、目立たない部分で一度試し拭きをし、異常がないことを確認してから使用してください。
万一変色したり風合いが変わってしまっても元には戻らないので、汚してしまったときは慎重にメンテナンスを行いましょう。

固体の汚れ

スプーン等で余分な汚れをすくい取り、やわらかい布で軽く拭き取ります。

シミ汚れ

中性洗剤をぬるま湯で薄めた液をやわらかい布に浸し、軽く絞って表面をたたくように汚れを落とします。
その後、固く絞った蒸しタオルでよく拭き取り、吸水性のあるやわらかい布でやさしく乾拭きし、自然乾燥させます。
また自然乾燥させる際、太陽光下での乾燥や、急激な乾燥は素材の硬化や変色の原因になるので、陰干しでゆっくりと行ってください。汚れは長時間放置すると取り除くことが難しくなるので、できるだけ早めに取り除くことが肝心です。

※ Z 革のお取扱いについては、特に下記の点についてご注意ください。

Z 革は、革本来の風合いを大切にするために表面が塗装されておりません。そのため吸水率が高く、耐水性が弱くなっております。
水ぶきはシミの原因になりますので、掃除機などでほこりを取除いてください。また、汚れが内部に浸透しやすく、一度汚れが内部に浸透してしまうとクリーニングで取り除くことができなくなります。

そこで次項でご紹介していますレザープロテクションをして頂くことをおすすめいたします。
プロテクションクリームの効果により汚れの浸透を防ぐことができ、汚れを取り除くことができます。
（プロテクションクリームの使用については p.8 で詳しく説明させて頂いております。）

重 要 ！
時間が経過してしまいますと汚れの浸透を防ぐことができません。
また、汚れてしまった場合は、できるだけ早く対処することが大切です。

Leather 革製品のお手入れ

■ レザーマスターによるケア＆メンテナンス

商品を購入してすぐのケアを

商品をご使用になる前に、レザーマスターをお使いいただくことをおすすめいたします。
レザーマスターはレザーケア商品のトップメーカーであるユニタス社が開発を行っている、革製品のクリーニングと保護（防汚）・保革（保湿）を同時に行うキットです。
（当社販売店にてお求めいただけます。）

購入後、年２・３回の定期的なメンテナンスを

４～６ヵ月に１回の定期的なメンテナンスをしましょう。
「ソフトクリーナー」で汚れた箇所をクリーニングした後、「レザープロテクションクリーム」で革の美しさを保護してください。

■ ソフトクリーナー・レザープロテクションクリームの効果と使用方法

ソフトクリーナー

ソフトクリーナーは、細かい泡によるクリーニングで革製品の毛穴の汚れまで洗い出すことができます。
クリーニングによって、革本来の自然なツヤとやわらかな質感がよみがえり、汚れが原因で起こる、手で触れた際のキシキシという耳障りな音もなくなります。

ご利用方法

1.「ソフトクリーナー」をよく振り混ぜ、適量を専用のスポンジに取ります。

2.スポンジをよく揉んで、ムース状の泡をたてます。汚れがひどいと泡はすぐに消えてしまうので、たっぷりと泡だててください。

3.汚れの箇所に直接、軽く円を描くようにして汚れを洗い出します。洗顔のときの力具合をイメージしてください。

4.浮かび上がった汚れを清潔なやわらかい布で拭き取り、自然乾燥させます。

※しつこい汚れの場合は、1～4を数回繰り返してください。

レザープロテクションクリーム

レザープロテクションクリームは、革の内側に目に見えない通気性膜をつくり、汗や油脂が革繊維に浸透するのを防ぎます。
商品を購入してすぐ、商品をご使用される前にお使いください。商品が汚れにくくなります。また、毎回のクリーニングの後にお使いいただくことで、いつまでも革製品の美しさが長持ちします。

ご利用方法

1.清潔なやわらかい布に「レザープロテクションクリーム」を取り、皮の表面に小さく円を描くようにしながら塗ります。

2.全体にムラなく塗れたら、20～30分ほど放置してよく乾燥させます。

3.散布後は、通常通りにお使いになれますが、拭きムラが気になる場合は、清潔なやわらかい布で、軽く乾拭きをしてください。

※レザーマスターにあらかじめ入っている白い布は、汚れてしまったら都度、洗濯をして使用できます。

■ レザー　プレトリートメントサービス

革製品を永くご愛用いただくためにプレトリートメントサービスを行っております。これは、商品納品前にレザーマスターのプロテクションクリームを熟練したスタッフによって均一に塗布させて頂く有料サービスです。

お客様ご自身でレザーマスターのキットをご購入いただき、プロテクションクリームを使ってご自宅でメンテナンスすることも可能ですが、特にＺ革などのアニリンレザーはクリームの吸い込みが強く、部分的にムラになりやすい傾向があります。
そこで、プレトリートメントサービスをご利用いただくことにより、ムラなく均一にプロテクションをかけることが可能となります。またご使用前のプロテクションがその後のメンテナンスに非常に効果を発揮いたします。

※Z革などのアニリン仕上の革は、プロテクションクリームが浸透することにより色が濃くなる場合がございます。
あらかじめご了承ください。

Leather
Fabric
Mattress
Wood
Glass
Metal・Plastic
Lamp

Leather 革製品のお手入れ

お手入れにつかってはいけないもの

・ベンジン、アルコール、シンナー、除光液など
・固形ワックス、革製品向けでないワックスやクリーナー、化学雑巾、漂白剤など
・硬い布、消しゴムなど
・ハンドクリームや牛乳など

■ 革製品のツヤとテカリについて

ツヤ

革製品本来のツヤは、購入時のツヤの状態です。メンテナンスの際は、普段あまり消耗されない部分を基準にして、その部分のツヤとあわせるように見比べてお手入れをおこなってください。

テカリ

テカリは皮革の毛穴に汚れが入り込み、毛穴がうまってしまい表面が平らになってできた光沢です。
汚れの目安となりますので、テカリが生じたらお手入れを心がけてください。

Fabric 布製品のお手入れ

■ 日常のお手入れ

ほこりや汚れを取り除いて、清潔に保つ

日常のお手入れでは、やわらかいブラシでブラッシングしながら表面を叩いたり、掃除機の口に丸ブラシをつけてほこりを取り除くようにしてください。
毛足の長いものは毛並みに沿ってブラッシングをしましょう。タオル地のようなループのものは、羽ぼうきでほこりを払うか、掃除機で吸い取ってください。
汚れがついてしまったらすぐに濡れタオルなどで拭き取ってください。長時間放置すると汚れが落ちにくくなります。

■ 汚れてしまったら

毎日の使用による汚れ

毎日の使用で少しずつついた汚れは、40 度くらいのお湯で薄めた中性洗剤で拭き取った後、きれいなお湯で拭いてください。
その際、後ろから前、上から下、または毛並みに沿って拭くとよいでしょう。
漂白剤やシンナー、ベンジンなどは使用しないでください。

液体・水濡れによる汚れ

やわらかい布で吸い取るように汚れを落とします。擦ったり押しつけたりして、汚れを中に押し込まないようにご注意ください。

固体の汚れ

スプーン等で余分な汚れをすくい取り、やわらかい布で軽く拭き取ります。

シミ汚れ

中性洗剤をぬるま湯で薄めてからやわらかい布に浸し、軽く絞って表面を叩くように汚れを落とします。
その後、固く絞った蒸しタオルでよく拭き取り、吸水性のあるやわらかい布でやさしく乾拭きし、自然乾燥させます。
また自然乾燥させる際、直射日光での乾燥や、急激な乾燥は素材の硬化や変色の原因になるので、陰干しでゆっくりと行ってください。汚れは長時間放置すると取り除くことが難しくなるので、できるだけ早めに取り除くことが肝心です。

Fabric 布製品のお手入れ

■ テキスタイルマスターによるケア＆メンテナンス

テキスタイルマスターによるメンテナンス
汚れが目立たなくても、ファブリック製品には皮脂などの目に見えない汚れがついています。
定期的にお手入れをすることで、より永くきれいな状態を保つことができます。

■ テキスタイルクリーナー・プロテクターの効果と使用方法

テキスタイルクリーナーN

「テキスタイルクリーナー N」はデリケートなコットン・麻・ウール・シルクなどの天然繊維やビスコースなどに適したクリーナです。（天然繊維が 10 ～ 20%以上含まれる混紡繊維の場合も「テキスタイルクリーナーN」の使用をお勧めします）
洗浄しないとチリや汗が繊維に染み込んで、色褪せを生じたり、繊維が弱くなってしまいます。
見た目に汚れが目立たなくても、ファブリックには汗や皮脂などが染み込んでいます。
汗に含まれる脂肪酸から生地を守るために半年に 1 回は体が接する部分を洗浄してください。

テキスタイルプロテクター W

「テキスタイルプロテクター W」は水性でありながら撥水と汚れ防止を兼ね備えたプロテクターです。
ファブリック繊維の 1 本 1 本がコーティングされ、水滴や皮脂の浸透から守ります。「テキスタイルクリーナー N」で汚れ、シミを除去した後にご使用いただくと、お手入れサイクルも長くなります。

ご利用方法

1.「テキスタイルクリーナー N」をよく振り混ぜ、30cm 程離れた所から、クリーニングしようとする製品が軽く湿るまでクリーナーを吹きつけます。

2. 付属のクリーニンググローブをぬるま湯に湿らせて汚れを拭き取ります。クリーニンググローブは汚れたら必ずすすいでからご使用ください。汚れが取れるまでクリーニンググローブをすすぎながらお手入れを続けます。

3. クリーナーを拭き取り、布地が乾燥しないうちに「テキスタイルプロテクターW」を使用し、乾燥させます。
※ご使用前は必ず製品の目立たない部分でプレテストを行い、乾燥後に色落ちや収縮による変形等がないか確認してからご使用ください。

■ ファブリック　プレトリートメントサービス

ファブリック製品を永くご愛用いただくためにプレトリートメントサービスを行っております。これは、商品納品前にテキスタイルプロテクターを熟練したスタッフによって均一に塗布させていただく有料サービスです。

お客様ご自身でテキスタイルプロテクターをご購入頂き、ご自宅でメンテナンスすることも可能ですが、プレトリートメントサービスをご利用いただくことにより、ムラなく均一にプロテクターをかけることが可能となります。 またご使用前のプロテクターがその後のメンテナンスに非常に効果を発揮しますので、是非ご利用ください。

Wood 木製品のお手入れ

■ 木製品お取扱いの際の注意事項

ストーブや放熱器具を近くに置かない	直射日光を避ける
放熱器具など、直接高温になるもののそばに設置すると、接着剤のはがれ、乾燥によるひび割れの発生、塗装面の変色、剥離の原因になりますので避けてください。	木材は直射日光にさらされると痛んだり（日焼け）、乾燥し反りが出てくる問題が起こる場合があります。直射日光を避けて設置してください。

天板の上に熱いもの・濡れたもの・ざらついたものを置く際のご注意

[高温のもの]高温のものを天板の上に置くと、内部の接着剤がはがれる原因となります。高温のものを置く際は耐熱の敷物を使用してください。このとき、雑誌や新聞を敷かないでください。紙が天板表面にはりついて取れなくなってしまいます。
[濡れたもの]カップなどを底面が水に濡れたままの状態で長時間置いておくと、白い輪ジミの原因になります。
[ざらついたもの]焼き物など、底面がざらついているものは天板の表面を傷つける恐れがありますので十分に注意してください。

■ 日常のお手入れ

乾拭きをし、汚れがある場合はすぐに拭き取る

普段はまめに乾拭きをして、ものをこぼしたり汚してしまったらすぐに拭き取るよう心がけてください。
つや消し塗装の家具に家具用ワックスを使うと、色ムラになってしまう場合があるのでご注意ください。
また、特に乾燥が気になる場合は、加湿器のご使用をおすすめします。湿度は 40 ～ 60%が適切です。

■ 汚れ・傷がついてしまったら

毎日の使用による汚れ

ぬるま湯で 100 倍程度に薄めた中性洗剤にやわらかい布を浸し、固く絞って拭き取った後、ぬるま湯に浸した布で洗剤をよく拭き取り、乾拭きします。食器棚などのガラス扉をクリーナーで拭く場合は、枠にクリーナーをつけないよう注意してください。

マジックなどの汚れ

中性洗剤で繰り返し拭き取ります。シンナーなどは使用しないでください。特にラッカー塗料は色落ちしてしまうので注意してください。マニキュアの汚れは落とせません。
洗剤をご使用の際は、その取扱説明書にしたがってください。

傷がついてしまった場合

市販のクレヨンタイプやペンタイプの補修材などで目立たないようにできます。深くえぐれてしまったような傷は、家具用パテで埋めて着色することもできますが、高度なテクニックを要します。販売店もしくはアフターサービス窓口にご相談ください。

[傷を予防するために]
ダイニングテーブルの傷予防には、天板の形に合わせてオーダーカットできる「PS マット」、「非転写加工マット」などがあります。両面がコーティングされているのでビニールクロスのように貼付く心配もありません。小さいお子さんがいらっしゃって傷が心配なご家庭などにおすすめです。ビニールクロスは木の呼吸を妨げ、そりや割れの原因となるので使用しないでください。

Wood 木製品のお手入れ

■ オイルフィニッシュ仕上の木製品のお手入れ

１年に１～２回、専用オイルをすりこむ

オイルフィニッシュは植物油を主成分とする塗料を木に染み込ませた仕上げで、表面に塗装膜がありません。
弊社商品ではチーク材の製品がオイルフィニッシュ仕上げとなっています。
木の風合いを長く楽しむために丁寧にお手入れしましょう。
ツヤを永く保つために１年に１～２回、専用のオイルを擦り込みます。
やわらかい布にオイルを少量染み込ませ、よく擦り込んだ後、別の布で乾拭きしてください。弊社ではワトコオイルをおすすめしております。
※ワトコオイルはホームセンターなどでご購入いただけます。

■ 汚れてしまったら

毎日の使用による汚れ

ぬるま湯で 100 倍程度に薄めた中性洗剤にやわらかい布を浸し、固く絞って拭き取った後、ぬるま湯に浸した布で洗剤を拭き取り、乾拭きします。食器棚などのガラス扉をクリーナーで拭く場合は、枠にクリーナーをつけないよう注意してください。

マジックなどの汚れ・傷

目の細かいサンドペーパーで木目に沿って丁寧にやすりがけをし、オイルを擦り込みます。
周囲との色ムラに気をつけながら、オイルを薄く伸ばしてください。

Glass ガラス製品のお手入れ

■ 日常のお手入れ

やわらかい布で乾拭きをする / 汚れはぬるま湯で固く絞った布で拭きとる

ガラス製品のお手入れは、まめにやわらかい布で乾拭きしてください。
ちょっとした汚れはぬるま湯で固く絞った布で拭き取ります。
しつこい汚れはガラスクリーナーや薄めた中性洗剤で拭き取ります。
ガラスクリーナーや中性洗剤を使った場合は、洗剤を残さないように仕上げの水拭き、乾拭きをしてください。
最後に乾拭きをしないとクリーナーの成分が白く浮きでることがあります。

■ 商品ごとのお手入れ

ガラス扉

ガラス扉の枠にクリーナーをかけてしまうと、塗装の色やツヤが変化してしまうことがあります。扉に直接クリーナーを吹きつけることは避け、布にクリーナーを染み込ませてからガラスを拭いてください。
※災害のとき割れたガラスの破片で怪我をしないよう、ガラス飛散防止フィルムなどで対策が可能です。

ガラスのテーブル

やわらかい布で乾拭きし、通常の汚れは水拭きします。しつこい汚れはガラスクリーナーや薄い中性洗剤で落とし、洗剤分をしっかり拭き取った後、乾拭きしてください。
指紋や軽い汚れにはアルコールも有効です。消毒用エタノールやアルコールの入ったキッチン用の衛生スプレーなどで拭き取ってください。

Metal・Plastic 金属・プラスティック製品のお手入れ

■ 日常のお手入れ

やわらかい布で乾拭きをする / 付着したほこりはこまめに取り除く

金属製品のお手入れ

金属製品のお手入れは基本的に木製品と同じです。乾拭き、水拭きが基本となります。
塩分のあるもの（食品など）の付着はサビや塗装の劣化につながりますので、速やかに除去して水拭きしてください。市販の金属用クリーナーをお使いになる場合は一度目立たない場所で試して、変色、キズの発生がないか確認の後にお使いになることをおすすめします。
クレンザーは、表面に傷がつくので使用しないでください。また手あかや油脂などの油汚れにほこりがたまると、湿気を吸収しサビの原因となりますので、こまめにお手入れをしてください。

メッキ仕上製品のお手入れ

メッキ仕上げの場合、手垢や油脂などがサビの原因となります。普段はやわらかい布で乾拭き、もしくは固く絞った布で水拭きをしてください。水拭きをした後は乾いた布でしっかりと水分を拭きとってください。また、年に数回金属磨きやメッキ製品用クリーナーなどで念入りにお手入れを行ってください。なお､この場合も最後に必ず乾拭きを行ってください。クレンザーは表面に傷がつくので使用しないでください。

アルミ製品のお手入れ

基本的に木製品と同じです。乾拭き、水拭きが基本となります。
汚れがひどい場合には中性洗剤をぬるま湯で薄めて、やわらかい布などを使って表面を洗浄してください。次に十分に水拭きし、乾いた布でしっかりと水分を拭きとってください。
洗浄剤や薬品は、アルミに影響がないことをご確認の上、ご使用ください。
酸性薬品、アルカリ性薬品、塩素系薬品はアルミを腐食させたり、塗膜はがれを引き起こしますので絶対に使用しないでください。
歯ブラシ、サンドペーパー、洗車用のブラシ、ワイヤーブラシなどを使わないでください。製品に傷がつき、シミや腐食の原因になります。

プラスティック製品のお手入れ

中性洗剤をスポンジや布に含ませて洗い、水拭きと乾拭きをします。 クレンザーなどで磨くと表面に傷をつけ、ほこりが溜まりとれにくくなるので使用は避けましょう。

Mattress マットレスのお手入れ

■ 日常のお手入れ

マットレスは常に清潔に保ち、いたみ・へたりを分散させる

マットレスを清潔に保つ

マットレスを清潔に保ち寝心地をよくするために、ベッドパッドの使用をおすすめします。
ベッドパッドやシーツはこまめに洗濯し、清潔に保ちます。
マットレスも時々立てかけて通気させると清潔さを保てます。立てかける際は、無理に折り曲げたりしないようご注意ください。3ヶ月に1回程度は通気させ、日光に当てるとよいでしょう。

いたみ・へたりを分散させる

マットレスは長くつかううちに、よく使用する部分が傷んできます。一部が傷んでしまうと寝姿勢にも悪影響を及ぼします。体圧が余計にかかる胸やお尻の部分は、ほかの部分よりへたりがちですので、定期的に天地や表裏を置き換えて均等化してください。
一度設置してから、「天地を置き換える」「裏返しにする」を定期的にうまく繰り返せば、マットレスのへたり具合を均等化させ、長持ちさせることができます。
また、いつも同じところに腰をかけたり、マットレスの上で飛び跳ねたりすることも避けてください。

Lamp 照明器具のお手入れ

■ 日常のお手入れ

こまめにお手入れをすることで電力の節約に

照明器具は、掃除しない状態でいると汚れが光を遮り、明るさが低下します。電力の無駄遣いにならないよう、こまめにお手入れをしましょう。
お手入れをする際は、必ず電源を切ってください。
場所によって汚れ具合が違いますが、目安としては、調理時の油やホコリが溜まりやすいキッチンやダイニング、立ちぼこりの多い洗面所やトイレは1週間ごとに乾拭きをしてください。タバコのヤニなどが溜まりやすいリビングは2週間ごとに乾拭きを心がけましょう。普段のお手入れと合わせて、定期的にランプやシェードに溜った汚れをしっかり落とすことも大切です。

■ ランプのお手入れ方法

電球や蛍光灯は消灯後、充分に冷めてから本体から外し、水や中性洗剤を含ませた布で汚れを拭き取ります。ランプの導電部分（口金やピン）を濡らさないように注意しましょう。洗剤を使用する場合はしっかり水ぶきをして洗剤分を残さないように。最後に乾拭きして十分に乾かしてから取りつけます。
※ハロゲン電球の場合、汚れたまま点灯するとガラス球が劣化し、破損の原因になります。電球には素手で触れず、清潔な手袋を着用してお手入れしてください。

■ シェードのお手入れ方法

照明器具は使用中は高温になります。
お手入れの際は電源を切ってランプが冷めるのを待ち、素材に合ったお手入れを行ってください。

プラスティック

30～40度のせっけん水をスポンジなどにつけてこすり洗いします。きれいに水洗いしたら、そのまま自然乾燥させます。乾いた布などで拭くと、静電気を生じやすいので注意しましょう。
また、シンナーなど揮発性のものを使用するとくもりやヒビが発生することがあるのでご注意ください。

布・木・和紙

普段からこまめにハタキをかけておきましょう。特に和紙はデリケートなのでそっとかけてください。木製のシェードは科学ぞうきんも効果的ですが、白木の場合はシミや油膜の原因になるので避けてください。

ガラス

中性洗剤を含ませたスポンジなどでやさしく洗い、水洗いしてよく乾燥させます。でこぼこのあるものはスプレー式のガラスクリーナーを吹きつけて、乾いた布で拭き取ると効果的です。透明ガラスは科学ぞうきんで拭くと油膜がつくので注意してください。クレンザーの使用も避けましょう。くもりガラスは指紋が残らないようゴム手袋などを使ってください。

・金属・陶磁器

金属で表面塗装してあるものは化学ぞうきんが効果的です。メッキ仕上げはやわらかい布で空拭きします。シンナーなどを使用すると塗装がはがれることがあるので使わないようにしましょう。陶磁器のものはやわらかい布で1～2回軽く拭きます。

株式会社 カッシーナ・イクスシー
アフターサービスお問い合わせ先

TEL：0120-101286
E-mail：afterservice@cassina-ixc.jp
平日 13:00 〜 17:00　※土日祝日を除く

CASSINA IXC. Ltd.